

震災から17年—支部で取り組む震災復興住宅での健康教室 脳梗塞かな?と思ったらすぐに119番

阪神・淡路大震災から17年、震災対策として取り組んできた金楽寺復興住宅での健康教室を1月25日に開催した。この取り組みは、入居者の「引きこもり」、ひいては孤独死を防止するものとして継続しており、住人から喜ばれている。

今回は、わだ脳神経外科クリニック(長洲本通)の和田太郎先生が「冬に気をつけたい脳梗塞」をテーマに講演し、入居者14人が参加した。和田先生は脳梗塞のタイプとその特徴を述べたうえで、高血圧や糖尿病、コレステロール、喫煙、大量飲酒など生活習慣の乱れが危険因子となっておこることや、再発するリスクが高く、再発する理由に患者さんの誤った認識による服薬中断や通院中断が多いことなどデータで紹介した。また、片方の顔や腕がしびれたり、ろれつが回らなくなるなど、脳梗塞の前兆と思ったらすぐに119番することが大事と説明した。

入居者らは熱心に聞き、薬の飲み合わせや、「こういう場合検査したほうがいいか?」など日常生活の中での疑問が交流された。



参加者からの質問にひとつずつ丁寧に回答した